

# 2 トヨタネ瓦版 2019

トヨタネ株式会社 本社：豊橋市向草間町字北新切12-1 / 〒441-8517 / TEL0532-45-4137(代) / FAX0532-45-4494  
 社内報：第29号・発行所：総務部経営企画課・編集・構成：朝倉芳則  
 URL <https://www.toyotane.co.jp> Email : [info@toyotane.co.jp](mailto:info@toyotane.co.jp) 写真：キャベツ畑

## 持続可能な農業について

今年はや暖冬、好天続きで冬野菜の値段が相対的に安い。弊社にとっての重要品目である施設トマトも安値が続いている。近年の活発な設備投資による暴落懸念も一部ささやかれており、真相はよくわからない。いずれにしてもこの2~3年に大きな設備投資をした農家にとっては、



正念場となっている。弊社としては生産性アップと省力化技術の推進による単位経費のコストダウンでお役にたてるよう努力を重ねるしかない。国の方向としては、農業基盤の弱体化による栽培面積減少を少数精鋭の大規模農家あるいは法人による高効率大規模園芸を推進する方向で進んできたことは間違いない。

4ha規模の次世代施設園芸モデル事業を経て、現在は1ha規模の施設園芸モデルを模索している。この方向性は、将来の日本農業にとって唯一「持続可能」な方針なのかどうかという疑問も一方で増えてきたように思う。今年5月から国連の「家族農業の10年」が始まります。日本はその共同提案国になっている。現在においても先進国における農業経営体に占める家族農業の割合は概ね95%あります。家族経営にも弱点や克服が困難な点が多いことはお客様からよく聞いていますが、少なくとも経済的な逆境には一番強いだろうと感じます。また私の周辺でも、定年帰農を実現させて、生き生きと暮らしている方も多く見える。そういう人は大規模経営を望んでいないが、高品質な生産物を作ろうと熱心な方が多い。またもっと若い層においても「半農半X」というライフスタイル、生き方がじわじわと支持を拡大しているようにも感じます。日本農業の将来を鑑みると、



やはりその「多様性」を大切にすることが肝要だと最近強く感じます。大規模かつ企業的農業を指向する方向も大事しながら、多様な農業で将来の日本農業を下支えすることもとても大事だと思います。それは生き



方そのものでもあり、21世紀の新たな思想や哲学を形成する流れにもなっていくのではないかと想像します。「多様性」に対する理解があるか、「持続可能性」の観点からどうなのか、この2点がキーワードだと思っています。

川西裕康

## キュウリの環境制御技術

キュウリは出荷額が平成5年までは1位だったのですが、トマトに追い抜かれてから年々減少している状況です。



しかし、冬春栽培ではトマトに次ぐ栽培面積があり、農水省のデータによると2017年には2830ha（ちなみにトマトは4010ha、1998年はキュウリ・トマトともに4000ha超）で栽培され、全国に産地があります。

近年トマトにおいて環境制御技術の取組みが拡大していますが、最近キュウリでの実証も全国で行われています。キュウリは全国平均収量が約16t/反に対して、環境制御を行うことによって25~30t/反、トップ生産者は40t/反以上の収穫量を記録しています。これに伴い養液栽培への取組みも広がりつつあり、トヨタネとしても全国



で協力させてもらっている拠点が増えてきました。

キュウリの収穫は毎日行い、高温期には1日2回収穫する時もあるため、キュウリの取組みとして栽培技術の向上と合わせて作業管理の改善も必須となります。現在トヨタネの研究農場でも環境制御・養液栽培・作業改善のテーマを解決できるように試験を

しているので、トータルでの提案が全国に発信できるように取り組んでいきたいと思ひます。

三浦慎一

## 季節の変わり目にご用心～肥料農薬の取り組み



2月も中旬すぎると、いよいよ春本番です。この時期の特徴として、短い周期で天気が変わり寒暖の変化も大きく、時には春の嵐が吹いたり、PM2.5や花粉が飛び始めたりと人間も農作物も体調管理に気をつけなくては行けない時期です。

期です。

ハウス作物では冬の間おとなしくしていた「うどんこ病」が気温の上昇とともに問題となってくる時期です。「うどんこ病」は乾燥状態で広がりやすいカビの仲間で、水をかけただけでもある程度退治できると言われています。



「うどんこ病」は菌を洗い流すように農薬を散布すると良いと言われるのはそのためですが、水に濡れると広がりやすい病気もあるので工夫が必要です。また露地作物では雨が続くと広がりやすい病気「べと病」、「コナガ」などの害虫の活動が始まる時期です。季節の変わり目はさまざまな病気や障害を引き起こしやすい時期なので農家にとって気が抜けない時期です。お客様にとって病害虫管理は品種選択に次いでとても関心度の高いことです。

今年からの肥料農薬の取り組みとして、作物ごとの資料を作り社内配信しました。毎月配信する予定です。まだスタートしたばかりの地味な取り組みですが「継続は力なり」の言葉を信じて、お客様や営業の皆さんの声を取り入れてお客様の役に立つ資料となるよう改善してゆきたいと思ひます。

今年からの肥料農薬の取り組みとして、作物ごとの資料を作り社内配信しました。毎月配信する予定です。まだスタートしたばかりの地味な取り組みですが「継続は力なり」の言葉を信じて、お客様や営業の皆さんの声を取り入れてお客様の役に立つ資料となるよう改善してゆきたいと思ひます。

と思ひます。

林 總喜

## 広域営業部門

広域営業部メンバーは皆個性的、パワフル!!! 皆さんこんにちは、広域営業部に昨年12月より配属となりました小塚です。

広域部門は現状九州・関東・中部の3つに分かれております。

広域ならではの営業範囲が広範囲で常に宿泊は必要になってきます。

各自お客様が遠くになります。常に効率

を考へて行動いただけるメンバーに助けられています。



頼もしいパワフルさと経験豊富さを兼ね備えた広域スタッフです。今年5月に発売開始予定のT-cubeハウスもちろんですが、お客様に合ったご案内・ご紹介・ご提案ができるようにしていきたいと考へております。またモットーは業務はもとより心も体も日々Maxを心がけています。

とは言え健康に注意する年齢です。(´\_`)\*

小塚幸峰

## ナーセリー通信



2月に入り、朝晩の冷え込みはまだまだ厳しいですが、日中は日差しも強くなり、日射量も増え、ハウスの中はだんだん暖かくなってきました。生産部ナーセリー課では、春作のウリ科野菜の苗の出荷が本格的に増えてきました。



ウリ科の野菜は、育苗時の温湿度管理や肥培管理、日照条件によって、苗のスタイルに加え、雌花の着生などにも影響が現れます。本圃に定植してから、それぞれの品種の特性をしっかりと発揮できるように、健全な苗の生産を目指し、生産部でも日々、努力しております。春作の苗シーズン、特に気を付けているポイントとして、2点あげさせていただきます。

### ①病害虫への対策

健全な苗生産を行う上で、最も重要なポイントの一つとして、うどんこ病をはじめとした病気の発生、アブラムシなどの害虫による被害を未然に防ぐことがあげられます。定期的な農薬の散布に加え、温湿度を含めたハウス内の環境を作物の好適条件に合わせていくことを意識して管理をしていきます。また、ハウス内で作業するスタッフの動線を管理することで、害虫のハウス内への侵入を防いでおります。

### ②接木順化における温湿度管理

接木は作物にとって、大きなストレスとなります。この大きなストレスをスムーズに乗り越えるために、接木前の苗のコンディションを適正に整えるのはもちろん、接木後、状態に合わせた温湿度に管理することで健全な接木苗を生産していきます。

「良い苗とは何か？」管理する苗と正面から向かい合い、健苗生産のポイントをしっかりと押さえ、生産部のスタッフ一同、お客様に満足していただける苗づくりを探索し続けてまいります。

内藤寛文

2月20日発行



## インターンシップについて

今までは、自社HPだけで募集をしていましたが、世の中の“1dayインターンシップ”が増える状況から、その流れに遅れてはいけないと思い、マイナビを使って募集を始めました。2018年8月から1月の期間で計10回行い、来てくれた学生さんは34名でした。1回の定員は4名とし、2dayと3dayで実施しました。弊社の業務や雰囲気を感じてもらえるように、営業同行や農場・ナーセリーでの就業体験などの内容で行いました。年々、採用活動が早くなり、インターンシップが採用解禁前の説明会のようになっている現状があります。学生さんにとって、就職活動のプラスになるようなインターンになり、その延長線上で、当社に興味を持って入社してもらえたら最高だと思っています。2020採用も始まりました。いろんな方にご協力頂くこととなりますが、よろしく願い致します。また、インターンシップにご協力を頂いた皆様、ありがとうございます。



山川英明

## 2019年秋冬カタログ『豊かさ実るタネを。』作成中です。

只今弊社の秋冬のカタログ『豊かさ実るタネを。』を作成しております。昨年のカタログより特集ページを作り品種のご紹介をしておりますが、今回は寒玉キャベツの『たいと』と『TS-C611』、ブロッコリーの新しいシリーズのグリーン3兄弟、『グリーンデルタ、グリーンマッシュ、グリーンライガ』を特集致します。



寒玉キャベツの『たいと』は黒腐病に強い耐病性を持ち、12月に8分結球させて、年明けの1月一杯まで耐寒性と在圃性を生かして収穫することが出来る品種です。今作では1月どりを予定していた品種が暖冬で前進化、2月収穫用品種が台風の影響で小玉傾向と生育の遅れがある中、1月にしっかり収穫ができたとお客様に喜んで頂けた品種です。

『TS-C611』は今夏より命名して販売させて頂く予定ですが、根こぶ病と黒腐病の両方に耐病性を持つ画期的な11月収穫用寒玉品種です。根こぶ病にお困りのお客様は是非お試し下さい。

ブロッコリーでは花蕾の形状が良く、立性で収穫作業性の良いシリーズとしてグリーン3兄弟の特集を予定しています。耐暑性がある『グリーンデルタ』、1月収穫用の立性で密植可能、花蕾の着生位置が高く収穫作業生が良い『グリーンマッシュ』、3月上旬収穫で花蕾形状と品質が良い『グリーンライガ』の3品種について詳しく紹介していきます。



その他では、新野菜としてカット野菜等の加工業務向けとしても注目されているトレビスの栽培のご提案のページを予定しております。

お客様のお手元には4月下旬にお届け致しますので、是非お目通し下さいませ。

坂神和孝

## 「思います。」と「である。」

少し前の重大な事件「バス運転手へ向けてレーザー光（レーザーポインター）を数十秒間にわたり照射」が発生した。極めて危険である。当然網膜への健康被害が発生する。運転中を考えると重大な事故になる可能性も大である。TVで専門家のコメントがいただけない。危険と思われる。とても専門家が述べるコメントではない。一般人でも危険と当然表現する。専門家がコメントで逃げる表現は思うのではなくはつきり最も危険な行為である。言い切り。世の中思うと言わないと許さない風潮があるのかもしれないがここはイエスノーを明確に具体的に述べる。以前私も報告書で思う思いますで当時の役員に無責任だと激怒されたのを覚えています。思う思いますは安易で可もなく不可もなく都合の良い表現で使いたいですがその時の経験から避けるワードです。確かに無責任な表現、大変楽ですが改善にならない。生産性のないワードです。使わないようにすると人は考え行動します。思っても別の改善や生産性の上がるワードへシフト（行動）したら如何でしょうか！



朝倉芳則

## パニック障害

今月2月5日(火)NHKで放映された『クローズアップ現代+』のパニック障害の特集を観ました。漫才師のN familyの兄(T)がいられていました。以前彼がパニック障害だったのは知っていました。実際のところパニック障害で何???殆どの人は無知です! 私もその一人です。パニック障害の受診者数は15年で9倍に急増。(1999年~2014年)最近では認知度も上がり治療法も進んできた関係で少し減っているようです。患者数は男性1.6%、女性3.8%。当社社員数約200名(男性6:女性4)として統計的に2名、3名で5名ほどの方がなっていないもおかしくない。実情はわかりませんが大なり小なりある??

パニック障害の症状は少なくとも突然4つ以上の症状が起こる(動悸、呼吸困難、発汗、震え、吐き気など)。この番組で一つ発見をしたことがあります。多分そうだったのかも?それは20年以上前にさかのぼります。症状は1

5分位しか運転ができない。呼吸していても酸素が取り込めない。それは突然襲われます。目的に行くまで何度も何度も襲われます。必死になって駐車できる場所やコンビニなどをさがします。



止まれる場所などこの狭い日本の道路にはないのです。また高速道路は最悪です。電池が切れる寸前で駐車した途端リクライニングを倒します。暫く動けない状態が毎日ように続きました。ただし助手席に乗っている人がいると会話するせいか全く症状は不思議と出ませんでした。当時原因が分からず会社を辞めるか内勤に変えてもらうか悩みました。何年続いたのか数年前後あったような感じです。当時はほかの原因だと思っていました。このTV番組から多分これだと今となっては推測ですがパニック障害だったのだろう。色々話をすると人それぞれあるようです。ストレス社会の先進国は後進国の5倍発症するようです。日本社会だと口外すると仕事を外されたり退職を余儀される可能性が大ですね。当時は原因がわからずにいました。カミングアウト (coming out) の程のものではありませんが誰しも色々あります。経験するとわかりますが、例えば私が肩こりの人の気持ちは分からないと一緒です。私が肩こりや腰痛の経験が少ない。夏になると食欲がなくなる人がいますが私は皆無に近い。なった事がないから気持ちは分からない。殆どの人には多分パニック障害は理解し難いですね。



朝倉芳則

## Torisetu

社のトリセツには手書き葉書を重視し活用する項目があります。はたしてそうなのだろうか？と疑問に感じるがありました。それは宛名については活字の方がベストではないのかと気づきました。理由として誤配を避ける。感情表現としては気持ちがこめられるかも？ただし達筆の人ばかりではなく字の下手な人もいます。また私のように筆圧がなく悩まされる人も。達筆でも理解し難い難解な文字もあります。芸術性が高い！それを避ける意味で活字を薦めます。郵便物の読み取り機器は精度は高いとは思いますが100%難しいのでは、また郵便配達の人分かりやすく間違わないのは活字。外国人も増えてきている点も考慮。伝える文書メッセージは手書きの方が伝わるのかもしれませんが届くまでの中間での工程を受け持つ「担い手である外部の人に対して考える」。



「担い手である外部の人が関わる場所は活字」、これがベストと考えます。視力を考えると適正の文字サイズ (大きめ) となります。営業担当者 (仕入) が受け持ちをしているお客さまや仕入先などの担当者様データから事前に宛名印刷を行っておけばお客さまや仕入先担当者様への感謝やお礼などのメッセージ書いただけとなりますのでスピーディー

でより伝えやすい準備が整います。

仕組みづくりをスタンバイしておく。

具体的に行うには仕組みづくりとデータづくり。

私の場合は基本的には手書きはありません。

スピード優先、綺麗で誰が見てもわかるを基本。

筆圧がないので私の場合は最初からこの考え方。

未だに領収証などのカーボン複写では力を入れても薄いのです。今の子供たちの鉛筆6Bが標準のようです。手書きでの筆圧が認知されてきた。私の場合は子供の頃から悩まされて来ました。《疑問から改善へ》

朝倉芳則

## 最近気づいたこと (発見ほどの物ではない)

数年前の冬、朝起きてうがい、水が冷たく痛いほどですね。キッチン用水栓 (浄水器付き) は湯が出るのがうがいと歯磨きも暫らくしました。ふと疑問に??キッチン用水栓の元にはセラミックフィルターが付いていて塩素殺菌が意味無し、尚且つ温度で塩素を飛ばしている。全く意味のないことをしていることに気づきました。これは駄目ですね!会社でも手洗いうがいは結構年間通して励行しています。風邪やインフルエンザ対策。インフルエンザ対策のワクチン接種しておりません。以前予防接種しても半数は感染するコメントを聞いてから全くしていません。かかる人はかかる。バレーボールのようにポンポンという風に菌を返せばならないかな?最近TVでも塩素の効果を言っていました。当然洗面用水栓でうがいと歯磨きですね。忘れずに顔も洗う。消毒剤としての塩素はほぼすべての細菌の殺菌に効果的であるそうです。消毒効果が高く確実なこと、水に残留し持続して殺菌できる。身近な塩素を効果的に使いましょう。



朝倉芳則

## 編集後記

編集に当たり他社の社内報などの良い点なども参考としております。当初社内報は2009年6月ころからスタートしております。当時を見直しますと表現的に日常的で読みやすさのある印象を受けます。ただし個人情報等の関係もあり現状内容的に当時の良さに近づけることは難しいかもしれません。



2019「トヨタネ通信」⇒2012年ごろより「トヨタネ瓦版」



へ。編集ソフトはWord、PowerPointなどで編集、現在専用編集ソフトで編集しております。

現在記事は部署代表者参加型となっております。より洗練された社内報へ考えております。

朝倉芳則